



DAMANHUR
ダマヌール日本ニュースレター

ぽぽろ



Japan
DAMANHUR in the world

《 第44 夏号 》

発行 ダマヌール日本
発行日 2018年6月21日
<http://www.damanhur.jp>

POPOLO

夏号

夢

～ 人生をガイドし精神的進化を導く～



はじめに

あなたは昨晚、どのような夢を見ましたか？ 夢は見なかったという人や不思議な夢を見たという人もいらっしゃるのではないのでしょうか？ でも、多くの人はあまり夢に注意を向けず、日常の忙しさの中で忘れてしまうのかもしれない。

紀元前の中国の荘子に、「胡蝶の夢」という有名な説話があります。荘子が夢の中で蝶になって百年を花の上で遊んでいたら目が覚めた。自分が蝶になったのか、蝶が自分になったのか疑った…というものです。夢と現実の境がはっきりしないたとえや人生の儚さにもたとえられています。

また、古代の知識を集結したアレクサンドリア図書館（注1）にちなんで編集された叢書アレクサンドリア図書館「夢判断の書」の原書は、2世紀末のアルテミドロスがギリシャ人の夢に現れたあらゆる事象の解釈を示していて、現代の深層心理学に至る知的伝統の源流になったと言われています。後に精神分析で活躍したフロイトも彼の著「夢判断」で、アルテミドロスの事例を数多く紹介しているそうです。

夢は古くから人々の関心事で、未来の予知や予言を示唆するものとして捉えられていたのでしょう。

夢とともに生きる

かつて人間が高度な精神文化を築いていた時代では、起きて活動している時と寝ている時の夢の境がなく、夢は現在をより良く生きるために使われていたそうです。

夢の民族と言われたセノイ族（注2）は、夢の感覚が開いており、夢の中で自分の夢だと自覚できる明晰夢を見たり、夢の続きを見ることができました。そして、夢の中で積極的に行動することにより、自分自身や現在の状況をポジティブに変えることを学んでいました。ジャングルの暮らしは常に危険と隣り合わせで、収穫がない時は命の存続に直結し、自然を良く観察して、個々の体験からの夢のサインとグループ共通の夢のサインを生活に活かしながら、厳しい自然に適応して暮らしていたのです。

1991年、1992年とセノイ族を訪ねた大泉実成氏によると、彼らは祭りの歌や儀式を夢で精霊から教

レム睡眠と最近の研究

えてもらうことがあり、文字を持たない彼らの文化の伝承にも夢が大きく関わっていたと思われます。例えば、ガメラ(特撮映画の架空の怪獣)の悪夢を見た大泉氏に、彼らの言葉は全く別な視点を示します。「ガメラが火を噴くのは、君を強くしようとしているのだ」「恐れてはいけない。彼と友達になれば、君は勇敢な人間になれる」「友達になるには、2人で楽しいことをやるのがよい。まず相手に向かって話しかける。次に2人で歌を歌ったりダンスをしたりするんだ」「そんなふうに夢をみていると、今度はガメラがいろいろな情報や新しい歌、ダンスのアイデアなんかを教えてくれるようになる…」セノイの夢の解釈は仲間たちとの信頼と絆の上に成り立ち、ガメラでさえ友達になれるという肯定的で友好的な受け止め方が特徴です。そして、大泉氏は民族の中で夢に注意を向けたり、夢について話し合う機会が多いほど、夢は活性化されるようだと言っています。



1900年代のことですが、重い精神病に陥った妻を夫が夢と現実を繋げて救った実例が『夢学』という本に書かれています。悪夢を見続けている妻に、夫は自転車を買うように言います。夢の中で自転車を買った妻は元気になるものの、一週間たつと塞ぎ込み自転車がパンクしたと言います。夫は昼間の時間に何度もタイヤ交換を教え、目隠ししてもできるまで練習させました。夢でタイヤ交換をした妻は今度は、山間の狭い小道で自転車ごと落ち怪我をして動けずその場所に横たわっていると訴えました。夫は登山の入門書で険しい岩をよじ登るテクニックを研究し暗唱させたのですが、妻は両手は傷だらけで死を待つばかりだと思っていました。それで、夫は危機に陥ったら昼も夜も自分を呼ぶように必死で言ったのです。ある日妻は、夢で夫が崖の上に立ち長いロープを自分に投げかけ、そのロープで助かったと晴れ晴れして「自分はもう病気ではない、危機に陥っても夫を呼べば助けに来てくれる」と言ったのでした。夢の可能性を垣間見る実例だと思います。

1950年代にシカゴ大学のクライトマン教授らはレム睡眠について明らかにしました。人の睡眠は2種類あり、眠りが浅い「レム睡眠」はREM sleep(Rapid eye movement sleep)の略で急速眼球運動と呼ばれており、睡眠中に眼球がキョロキョロ動くことに由来します。もう一つの眠りが深い睡眠は「ノンレム睡眠」と呼ばれ、これらの睡眠は一晩に4~5回繰り返すと言われています。実験ではレム睡眠中に被験者を起こすと高い確率で「夢を見ていた」と報告され、レム睡眠は夢を見る睡眠として注目されました。しかしその後、ノンレム睡眠中も夢を見るのがわかってきました。

また、2017年4月夢に関して従来の定説を覆す研究が発表されたそうです。ウィスコンシン大学マディソン校の研究チームは、46人の被験者それぞれに256ヶの電極を備えた脳波測定用ネットを装着してもらい、睡眠をモニタリングしました。被験者は定期的に起こされ、夢を見ていたかどうかを尋ねられました。『被験者はレム睡眠中であればノンレム睡眠中であれば、夢を見ているときは脳の後部皮質領域における低周波活動が減少していると説明している。後部皮質は、空間に関する判断や注意力に関係する領域だ。…略…このゾーンの活動をモニタリングするだけで、被験者が夢を見ているかどうかを92%の確率で予測できたという。…略…さらに調べた結果、脳のどの領域が活動しているのかを観察することで、夢の内容を分類できるようにもなった』つまり、夢の中で会話を聞いたと被験者が報告したときは言語や理解を司る脳の領域が活動していて、人の夢を見たときは顔の認識を司る領域が活動していたそうです。

さらに、オーストラリアのアデリド大学で明晰夢の研究をするアスピー氏は、169人の被験者にツールや薬物を使わない3種類の方法を模索し明晰夢を調査しました。中でも3種類全部を組み合わせ、「明晰夢誘導の記憶法」と呼ばれるテクニックを終えて5分以内で眠ることができた人に限っては、ほぼ46%の成功率で明晰夢を見ることができたそうです。さらに精度をあげる方法を追求していくと共に、悪夢の治療などに応用していきたいとしています。

私たちが注意を向けていないうちに、多くの夢の研究が進んでいるのです。

ダマヌール 夢のためのセルフ

夢をガイドし、夢の世界を自覚して移動することをサポート。夢を見る人にとって有益な夢を選び、その理解を促進するなどの機能があります。*日本未発売



ダマヌールでは

ダマヌールでは夢の感覚を目覚めさせることを大切にしています。夢の感覚は、人間が本来持っているにも関わらず失ってしまった内面的な感覚のうち最初に取り戻すべき5つのうちの一つです。

また、目覚めているときには直接対話できない、自分自身の深い部分と対話する可能性が得られます。夢を方向づけて怪我やトラウマを癒すことも、他の種と交流することも可能です。そして、夢の次元には可能性のつまった種があり、夢でこの種を見出し方向づけることによって、この物質の世界で因果関係や時を超えた実現も可能になり、現実を変えらるきっかけが夢の次元に隠されています。

また、この宇宙において実質の部分はほんの数%にしか過ぎません。ですから、宇宙全てが自分の意識となるように進化を目指す過程で、実質とは異なる多くのエネルギーの次元を知る必要があります。そのエネルギーの次元に、アストラル次元や夢の次元が含まれています。アストラルトラベルの上達と夢の感覚を目覚めさせて、アストラル次元や夢の次元の体験の記憶を持ったままこの物質次元(肉体)に戻ってくることは、私たちの精神的進化には不可欠です。

そしてアストラルトラベルの技術を高めていくと、より広がりのあるアストラル領域を旅することになりますが、その際のアストラル次元のオリエンテーリングにも、夢の感覚は役立ちます。

また、ダマヌールでは、夢の次元にダマヌールのテリトリーと繋がった人工的な夢の街を作りました。そのことにより、ダマヌールの在住市民は、安全に夢の感覚を取り戻す訓練や実験が継続できるようになっています。そして精神的な探究を基本とするダマヌールの在住市民にとって、ダマヌールの夢の街にアクセスできるダマヌールのテリトリーで週に4日以上眠ることは義務となっているのです。

夢から生まれたダマヌールは、昼間に活動するときも寝て見る夢の中でも街を具現化して実現に至ったのです。

ダマヌールにある「夢と眠りのサーキット」



夢の発展のために

日本に住む私たちは、事故や危険な夢を見た時はグループで共有してみんなに注意を促し、特別な夢も共有しています。友人は夢に古木が出てきて、その古木に会いに行き活性化をしたことがあります。友人は嬉しそうに「夢で見たのと同じ古木を前にして感動した、夢で呼ばれた」と話していました。別の友人は、夢の中で「これは夢だ」と気づいたようで、その後の夢の展開に期待をしていました。著者は過去生セミナー後に、夢の中で魅力的なスペインの女性が現れて「あなたの想像と違うでしょ?」と話しかけられ、その体験から私の中で彼女と共に生きているという実感が生まれました。

体験からですが、多忙だったり、疲れ切っていたり、ストレスをかかえ忙しい生活を送っていると、夢を覚えていないことが多いので、忙しくてもゆったりとリラックスして就寝することをお勧めします。そして、前述の『夢学』の書物では、夢を見たら夢日記をつけるように勧めています。誰でも毎晩夢を見ているのに覚えていないだけです。『夢学』を書いたパトリシア・ガーフィールドは自分の夢の記録を続け、25年間に渡って12冊の本にし、夢の数は1万例に及ぶそうで驚きます。夢の記録をつけ、再度読むことでも夢が強化されるのでしょうか。

また、インターネットなどで多くの夢占いが行われていますが、個々の嗜好や生活環境や考え方の違いなどがあるにもかかわらず、通常の夢占いは単にパターンに当てはめることが多くお勧めはできません。一般に言われている夢解釈も間違った解釈を与えていることが多々あります。ダマヌールの夢の探究から確立したセミナーは一般の方へも提供されていますので、興味を持たれた方はぜひお問い合わせください。

ダマヌールの理想は、昼間も夜も夢を見て、夢の中でも行動し目覚めている民族になることです。夢の重要さを認識し自分自身を探求して、夢の中でも共に前進して行きましょう。

(注1) 紀元前300年頃に、エジプトのアレクサンドリアに建てられた古代最大で最高の図書館。火災等により喪失、現在は新アレクサンドリア図書館として2001年に再建。

(注2) 多数民族の政策主導に伴いジャングルの開発で生活の変化を余儀なくされ、少数民族として多くの困難に直面している。

《参考図書》

大泉実成著「マレー猿は悪夢を見ない」タイトル改題「夢を操る」、
パトリシア・ガーフィールド著「夢学」、他。

夢体験

夢の中の黄金の世界、そこは

よく夢を見る子供でした。それは決まってカラーで空を飛ぶ夢や家族の夢、初恋の男の子が登場する楽しい夢や怖い夢…。

夢と言えば忘れられない体験があります。ダマヌールに出会うまで、謎のままずっと引きずっていたインパクトの強い夢。

20代の頃、私は不思議な同じ夢を何度も見て悩んでいました。夢の中で何かに追われて逃げるのですが、逃げ込むところがあり得ない場所。目のくらむような黄金の世界。行っても行っても金の道、金の柱。そこではすべてが大きくて自分は小さい。金の大きな扉の前に立って「開く」と思うとスッと通ることができる、でも次の部屋も金色。その金属は冷たくもなく滑りもしない。まるで仏壇の中から出られなくなってしまって、もがいているような恐怖。ある時は数日続けて、またある時は忘れた頃に一晚見る。

夢の中で心は不思議と落ち着いているのですが、



やっぱり怖い。そこで思い余って祖母に相談してみました。「おばあちゃん、変な夢を見て眠れない。私がすごく小さくなって仏壇の中を逃げ回るんだけど、どうしてもそこから出られない」と。その頃、金ピカの世界なんて、浄土真宗の金仏壇しか知りません。心配した祖母が医者にご相談、なんと睡眠薬を処方されました。

ダマヌールのアトランティスの講義を受講された方たちはピンッときていますね。これらの夢は、深いところに眠っているアトランティスの記憶でした。初めてアトランティスの絵画作品を観た時「あっ、ここ全部知っている！」と驚きました。あの建造物の内部はこうなっている、道の細部はこうだと記憶が蘇ります。ダマヌールの叡智で、長年のモヤモヤが解消され納得でした。
(ジベット)

ヒーラーからの便り

魂の滋養タイム

ダマヌールに出会った頃、突然知り合いのMさんが末期ガンだと聞いて信じられない思いでいっぱいでした。なぜならMさんは食養生のスペシャリストで、定期的に断食も取り組んでこられた方でした。あのMさんが末期癌になるなら、いくら食養生などをしても意味を為さないのではないかと、人が重い病になるのは、一体どんな要因があるのだろうとの疑問が湧いていました。

病院へお見舞いに行ったとき、Mさんはとても優しい笑顔で私を迎えてくれました。殆ど喋れないくらい体は衰弱していましたが、心は満ち足りて幸せそうで、周囲の人に感謝を表していました。その姿に人生の最後に、病という体験を通してしか得られない魂の学びがあり、Mさんは最期まで進化する姿を見せてくれているのかもしれないと思いました。

その後、ヒーラーの学校で人が真に成長や進化に向かうためのエネルギーは、「愛や幸せ、喜び」の感情なのだ学びました。自分自身や愛する人を慈しみながら優しく撫でるときの感覚、心の底から湧き上がる幸せや喜び、不可能と思える大きな夢が、限界を超えて仲間と達成できたときの喜びなど毎日がそんな感情で満たされていたら、魂のもっとも神聖な部分に近づいていけるのでしょうか。

しかし、誰しも毎日ハッピーなことばかりではありません。落ち込んだり泣いたり…イライラすることも

多いものです。そんな時にふと思い出すのは、「毎朝起きた時に、さあ人生の最終ゴール(勝ちゲーム)に向かって今日はどんなゲームを組み立てようか!とワクワク考えよう」というインストラクターの話です。

たとえ目の前の壁が困難に見えても、目的地向かう途中経過なのだから、どうやって超えようか!と失敗をも楽しみながら進んでいく。死んだときに持って行けるのは、魂に蓄積できる体験だけなのだから、と。

なかなか人間だから思うようにできない時もあります。でも、やる気になれば出来る1日の締めくくりの10分間の深呼吸は魂の滋養タイム(プラノセラピーを受けている人はプラーナも活性化される)。喜びを感じられる大切な時間にしたいと思っています。
(コーギー)

●プラノセラピーに関するお問合せ先

ダマヌール日本神戸センター

0798-23-9161

damanhur-kobe@s5.dion.ne.jp

ダマヌール日本支援ネットワーク イピアル

052-683-8233

jpjal@crux.ocn.ne.jp

ダマヌールのヒーリング“プラノセラピー”“ビューティーのプラノセラピー”は、神戸センターとイピアルの他、各地で受けることができます。詳細はお問合わせください。

木の意識の活性化

滋賀県 百済寺「千年菩提樹」 不死鳥の樹

生命の息吹を感じる春の一日…Oroveljの有志4人は、ダマヌール日本センターのある三重県四日市市からの山道を活性化しつつ山越えし、滋賀県東近江市にある百済寺の古樹「千年菩提樹」の活性化を行なってきました。

百済寺は、聖徳太子によって創建された、日本の歴史舞台としても名だたる近江国最古級の寺院です。そこには、1400年以上前と変わらない佇まいの百彩色の世界が広がっていました。



本堂横にある「千年菩提樹」は「不死鳥の樹」と呼ばれていると知り、「私たちのインストラクターのFeniceの樹？」と思いを馳せました。親しみを抱き、対面の期待に胸と

きめかせながら、境内奥へと石段を踏みしめ登って行きました。「千年菩提樹」の樹齢は推定約千年。古来より「仏陀の聖樹」として崇められていましたが、1573年4月7日に惜しくも織田信長の焼き討ちにあい、幹まで焼損しました。幸いにも熱が根まで及ばなかったために、幹の周囲から再び蘇って今日に至った経緯と、その雄大な羽根を広げた不死鳥のような姿から「不死鳥の樹」と呼ばれています。中央の空洞部(直径80cm)は焼き討ち当時の幹の直径に相当していました。

まさに「永遠不滅の教え」と「生命の偉大さ」を現し、身をもって「生きとし生けるものに幸せあれ」と教えているようでした。

「生きていてくれてありがとう！私たち無知な人間を許してください。人間の戦いに巻き込まれ火の矢を打たれて、どんなに熱かったことでしょう」そして「大丈夫、大丈夫…」と寛大で暖かな気持ちが私に送られてきました。境内には「不死鳥の樹」の子株が8本育てられていると記載がありました。その内の一隅を照らす菩提樹は、エネルギーに満ち溢れ、その放射状に幹を広げた姿は、今にも羽ばたきそうでした。

夏になると満開の花を咲かせ芳香を放ち、その香りに誘われ、ミツバチや小さな昆虫たちが蜜を求めて集まり、羽音を響かせるといいます。香りと共に、千年菩提樹からの知識も伝承・継承されているのでしょう…それはまるで、ダマヌールに於ける不死鳥=Feniceが懸命に後継者を育て、Falcoさんからの知識=パワーを後世に伝えている生き生きとした姿を彷彿させました。(トンノ)

水との調和的共存

日本では梅雨を迎え水の季節です。昨年はゲリラ豪雨などで観測史上最大となる降雨が多発し、堤防決壊、土砂災害などが続きました。住民を守るための堤防や河川事業もそれらの計画を超えた豪雨には太刀打ちできません。これらは人間が引き起こした自然破壊の結果で、地球という命の存在がバランスを取り戻すために起こった現象かもしれません。

私たちはよく海や川にでかけます。海や川を見ていると自分自身が癒されることが多々あり、水の浄化の力にも気付かされます。川によっては、思いがけず絶滅危惧種のメダカを見つけたり、河川敷いっばいに菜の花が咲いていたり、白鷺や亀と逢えたりと嬉しいことにも出会います。また、引き込ま

れるような急な流れにたじろいだり、河口近くでは満潮時に水が川を遡る現象も見られました。自然は偉大で、厳しく、豊かで美しいです。

また、河川を管理している部署では、大腸菌、COD(科学的酸素要求量、水中の有機物などを酸化剤で酸化するときに消費される酸化剤の量を酸素の量に換算したもの)、ダイオキシン及び内分泌かく乱科学物質、その他の検査などが行われ見守られているようです。

一人一人は微力でも、多くの命を育む水に感謝をして水と調和的な関係が結べるようになりたいと願います。あなたも水について意識を向けてみませんか？

セミナー体験記

4月には「死を学ぶ」5月には「アストラトラベル」が行われました。参加された方のご感想をご紹介します。

◇ 「アストラトラベル」を受講して

イタリア北部に「ダマヌール」と言う都市がある！20年ほど前に私の脳裏に刻まれました。その頃からの友人は、最近帰らぬ人となりました。もし可能ならば亡くなった友人に会いたい!!…そんな切実な思いでの京都セミナーでした。

1日目の「アストラトラベル体験」、暖かい格好で横たわり、体のどこも痛く感じないように、念入りに準備をして!!…「サア! アストラトラベル出発です」ゆったり気持ちとドキドキする気持ちが入り混じり、落ち着かない時間の中…聞こえてくるシンバルのような音!!…その後…何かを追いかけるような舌打ち? 意識が遠退いては…急に音が耳にはいつてきたり…眠ってしまったら…失敗だ~と意識を集中させて思い直す。何回も音が遠退いて頭の中が真っ暗になったり! 我に帰る! を何度も繰り返す。

2日目は、全身全霊で「体から離れるぞ~!!」と決心して頑張り過ぎずに頑張ってみました。5月は「アストラトラベル」がしやすいそうで、最適なこの時期にセミナーを受けられたのはラッキーです。京都は雨でした。リラックスを自分に促し、呼吸はゆったりと…心を整えて…。アストラトラベルを促す音が聞こえる…なかなか分離できない~。音が物凄く鮮明に耳に入る。すると…目の前の真っ暗な空間に布が何枚も登場する、重なっている布に綺麗な模様が見えます。美しい縁取りに囲まれて青い花の模様やオレンジや赤の模様。風になびいて何枚もの布が手前から奥まで出てきます。

まだまだ友達に会うのは程遠いです。今後も教えていただいた練習を重ねてアストラトラベル頑張ります。ありがとうございました。(60代女性)

◇ 「死を学ぶ」を受講して

なんとなく死とは重苦しいもの、タブーであり暗いものといった一般的な認識がありますが、フェニーチェさんが講師、ジュゴンさんが通訳で、明るくユーモアを交えながら教えて頂けたので良かったです。かつてローマで行われた死に関する国際シンポジウムでダライラマと共にパネラーを務めたフェニーチェさんの話は真実味がありました。

輪廻転生の話はやけに心の中で納得がいくものも多く、死後の世界へ旅立つ魂を手助けする方法などは、形式的な日本のお葬式や折々に唱えてもらう「お経」などよりも魂に寄り添っているように思えました。個人的には昨年、父親を亡くした時、どうやって行動したらよいかまったくわかりませんでした。ですから、周りの人達に言われるがまま送り出すことしか出来ませんでした。死んだらどうなるかなど教えてくれる人は今までいなかった…。

今の教育では、なぜ死や生といった一番考えなければならぬ問題から人を遠ざけてしまうのか…。そんな当たり前のことを再考するきっかけになりました。ですから今回のような機会に死を考えることができたのは素晴らしいことでした。ダマヌールの教えを学ぶと死が漠然とした恐ろしいものという認識から離れ、結局はよく生きるしかないという答えに辿り着くので良い哲学でもあると思いました。

死後、カルマの神様に会うまで、これからの人生後半は悪いカルマは積まずにできるだけ良いカルマを積む生活を心がけようと思います。死という現象は奥深く、今回のセミナーではその入口を学ばせて頂いた程度なのだと思います。ファルコさんが書いた参考図書などもあるそうなので、学んでいこうと思います。(20代男性)

来日セミナー講師紹介



アンティロペ・ヴェルベナ
(Antilope Verbena)

ナチュラルセラピー・ホリスティック健康科学博士。ダマヌールのスピリチュアルヒーラー。20年以上に渡り、ダマヌールのスピリチュアルヒーラーの学校の運営指導に関わる。

セルフ学の研究によって実現したセルフフィクショナルなキャビンを使ったヒーリングやセルフフィクショナルなペンデュラムの専門家であり、健康問題の解決に向けた的確なアドバイスには定評がある。また、時に関する研究者で、タイムトラベルやスペーストラベルの実験を行っていた時期は、自らが信じていた体験も持つ。



フェニーチェ・フェルチェ
(Fenice Felce)

ナチュラルセラピー・ホリスティック健康科学博士。ダマヌール創立メンバーの一人。スピリチュアルヒーラー。秘教的物理学・ダウジング・インナーハーモニゼーション・セルフ学的催眠療法・

アストラトラベルのスペシャリスト、古代エジプト哲学とミステリーの研究者として国際的に活躍しています。その豊かな研究体験と深い理解と幅広い知識にあふれた講演は常に多くの参加者を魅了してやみません。

来日セミナースケジュール 2018年7月以降

2018年7月8月のセミナー

- ★【セルフヒーリングと自己治癒】
～自己治癒力を高めて、健康なあなたを実現しよう～
in 名古屋 2日間セミナー
- 講師：アンティロペ・ヴェルベナ
開催日：7月14日(土)15日(日)
時間：両日とも 10:00～18:00
場所：ウインクあいち 14日1207号室 15日1309号室
交 「名古屋駅」より徒歩5分
参加費：44,000円(7月1日までの事前振込43,000円)

申込締切 7月1日

- ★【インナーハーモニゼーション I】
in 岐阜 2日間セミナー
- 講師：フェニーチェ・フェルチェ
開催日：8月4日(土)5日(日)
時間：両日とも 10:00～18:00
場所：ミモザ道場 *広瀬内科クリニック内
交 JR「穂積駅」より南へ徒歩5分
参加費：40,000円(事前振込39,000円)

2018年7月8月のミニ講演会

- ★【忘れてしまった神様からの贈り物】
in 名古屋 ミニ講演会
- 講師：フェニーチェ・フェルチェ
開催日：7月5日(木)
時間：18:30～20:30
場所：ウインクあいち 1008室
交 「名古屋駅」より徒歩5分
参加費：3,000円

- ★【ダマヌールのセルフティックヒーリング】
～地球上で唯一の未来からきたヒーリング～
in 神戸 ミニ講演会
- 講師：アンティロペ・ヴェルベナ
開催日：7月16日(月・祝)
時間：13:30～15:30
場所：JFC 日本研修センター神戸元町 中会議室
交 JR、阪神「元町駅」より徒歩3分
参加費：3,000円

ダマヌール日本は、世界中にあるダマヌールのセンターの一つとして、持続可能な社会を実現するための情報、より良く生きるための精神的な知識やヒーリングを日本にもたやすために1999年より活動しています。

来日セミナー・現地体験セミナー等の開催 / メールマガジン・ニュースレターの発行 / ダマヌール関連書籍やCDの紹介 / クラシックセルフの紹介 / ダマヌールのヒーリング / 樹の意識の活性化 / ダマヌールを知る会・セルフティックペインティングを観る会等の開催

2018年9月10月のセミナー

- ★【植物とのコンタクト】 in 京都 2日間セミナー
- 講師：フェニーチェ・フェルチェ
開催日：9月15日(土)16日(日)
時間：両日とも 10:00～18:00
場所：関西セミナーハウス
交 叡山電鉄「修学院駅」下車徒歩15分。
または、地下鉄烏丸線「北山駅」からタクシーで10分。
参加費：40,000円(事前振込39,000円)

- ★【インナーハーモニゼーション II】
in 岐阜 2日間セミナー
- 講師：フェニーチェ・フェルチェ
開催日：10月6日(土)7日(日)
時間：いずれの日も 10:00～18:00
場所：ミモザ道場 *広瀬内科クリニック内
交 JR「穂積駅」より南へ徒歩5分
参加費：40,000円(事前振込39,000円)

2018年11月過去生のリサーチ

- ★【過去生のリサーチ】
in 京都 1泊2日のセミナー
- 講師：フェニーチェ・フェルチェ
開催日：11月24日(土)10:00開始
11月25日(日)18:00終了
場所：関西セミナーハウス
交 叡山電鉄「修学院駅」下車徒歩15分。
または、地下鉄烏丸線「北山駅」からタクシーで10分。
参加費：60,000円(宿泊とセミナー中の食事代別途)
*ダマヌールでの事前調査費を含む

申込締切 9月15日

フェニーチェ・フェルチェ基調講演
「アトランティス、地球の古代文明と人間の歴史」
開催日：10月17日(水) 13:00～18:00(予定)
場所：東京 ヒカルランド セミナールーム
生前、フェニーチェと親交のあった竹内文書
研究家 故高坂和導氏の遺志を引き継ぎ活動
されている三和導代主催「高坂和導祭」の中の
講演会です。

● お問い合わせ・お申込み先

ダマヌール日本神戸センター
0798-23-9161
damanhur-kobe@s5.dion.ne.jp
ダマヌール日本支援ネットワーク イピアル
052-683-8233
jppal@crux.ocn.ne.jp

HP: www.damanhur.jp

FB: https://www.facebook.com/damanhur.jp

ダマヌールのコミック「記憶のトランク」より (5)

オベルト少年に不思議な訪問者が...

①

…彼はとても変わった子どもだと語られていたからね…彼の幼少期については数多くの伝説が広まっていたんだ…

こんな時間について誰かしら？ オベルト坊や開けにいっておくれ。

ランツォ谷、バランジェロ。1950年代。

ご…ご…ごんぼんは…

あ！ ちよつと待って…

これは君の物だよ。とても遠いところからやって来たんだ。うまく使いなさい。

オベルト、誰だったの？ 私を探していた？ パイを探していたの？ それともあなたのいつもの不思議なお友達のひとりじゃなかった？

②

オベルト！ 今すぐ洗濯機に私にかまわないように命令してちょうだい。わかってるでしょ。怖いよ！ オベルトオー……

オベルト、もう、聞いているの？ あなたに言っているのよ！ 何をたくらんでいるの？ 何も爆発させないでよ、また思いで家具を動かしたりしたらただじゃおかないよ…オベルト！

そのトランクの中には何冊か魔法の本が入っていた…オベルトが本を読むやいなやそのページの記号が消えていったんだ！

あなただけオベルトは魔法使いのようなものだと言いたい？

そこに書かれていたことによつて少しずつ彼は古代からの知識を思い出し、彼の中で眠っていた才能を取り戻しはじめた。

彼はいつも、自分は他の人たちと同様の人間だが、ある特別な特徴があると述べている。それは記憶だ。過去の記憶だけでなく、おそらく未来の記憶もあるような気がするよ！

本当に？！ でも彼に本が入ったトランクを届けた不思議な男は誰だったの？

③

さあね… まだすべてが明らかなわけではない…遠く時間から来た彼の友人だったと言ふ人も、別の人生の彼自身だったと考える人もいる！

オベルトはとても想像力豊かな子どもでした。信じられないくらい多才で、早熟で、精力的。

彼は自分の研究を維持するために保険代理店を開きました。イタリアで最も若い代理業者でした。

プラノテラビーによるヒーリングを始めました。

何にもまして本を読み、研究し、実験し続けました…

そして少しずつ彼の過去生のすべての記憶を取り戻していったのです…

④

…とても、とても遠くに探しに行った時も…

ランツォ、ディアポロの橋。

さで、ちゃんと分かってる？ 本当に行くんだ？

はい、はい、待ち遠しいよ！ この時を一ヶ月も待ったんだ！ ほら、行こう！

エラサルノ・ヌヴェ・アンドゥマアデス★

彼は「石の中に入ろう、さあ！」と言いました。

向こうに着いたら自分が何をすべきか覚えている？

はい、はい、安心して。すべてを注意深く観察して、戻ったら細部にわたって描くのさ。

ああ、なんという…着いたのかな？

もちろん！ 戻ってこれたらね。

もちろん戻ってくるよ！ そして私は催眠療法で君が思い出すのを助けるよ。

目を開けてみて…

どうだい？ ここが私の懐かしい昔のアトランティスだよ。

次号、アトランティスで彼らを待っていたのは…
2018. 6 ニュースレター第 44 号